

令和7年度 大阪府立堺聴覚支援学校 第3回 学校運営協議会 記録

日時：令和8年2月16日（月）9：45～11：55

場所：大阪府立堺聴覚支援学校 会議室

出席者：校長 甲斐俊夫

【協議会委員】 井坂 行男（大阪教育大学教育学部 教授）
山下 眞由美（堺市立百舌鳥支援学校 校長）
早川 良次（シャープ特選工業株式会社 社長）
廣瀬 宜礼（大阪河崎リハビリテーション大学 講師）
古田 春奈（本校PTA 会長）
田中 與志男（堺ろう学校同窓会 会長） 欠席

【事務局】 教頭・事務長・首席・幼稚部主事・小学部主事・中学部主事

【傍聴者】 無し

1 開会

2 学校長より挨拶

3 校内見学

小学部 → 幼稚部 → 中学部 聴能室 聴力測定室

4 協議

(1) 令和7年度 学校教育自己診断の結果について

【委員からの主な意見・質問及びその回答】

- 高等部がない本校において、卒業後の進路に対する保護者の不安は非常に大きい。企業人を招いた講演会や職場体験実習などは、生徒と保護者が将来の見通しを持つために極めて有効である。
- 全国の聾学校の実績を見ても「ロイロノート」の活用は非常に良い取り組みである。
- 若手教員の育成には、学部の枠を超えてメンターが相談に乗るような体制を構築することが有効ではないか。

(2) 令和7年度 学校経営計画について

【委員からの主な意見・質問】

- ホームページなどを活用し、卒業生が情報交換できる交流の場を学校が主体となって設けるべきである。
- 同窓生との繋がりは成人した聴覚障がい者にとって「心の拠り所」となる。学校が中心となり、学年を超えた繋がりを作る場を提供することには大きな価値がある。
- AI 活用に関しては、ツールの種類が多岐にわたるため、関係者で情報を共有し、試

用した上で最適なツールを選択するプロセスを重視してほしい。議事録作成などの校務効率化に期待している。

(3) 令和 8 年度 学校経営計画（中期的目標）について その他

【委員からの主な意見・質問】

- 令和 8 年度の進路指導の具体的な方針を確認したい。特に企業との連携においては、事前に活動の枠組みをしっかりと作っておくことが重要である。
- 通級指導における「自己理解を深める」という目標は、本校の指導だけでなく、在籍校の教員や保護者との密接な連携のもとで進めることを前提に計画してほしい。
- ICT 機器の導入が、実際の学力や理解力の向上にどの程度寄与しているのか、その効果を具体的に検証する必要がある。
- ICT の利用に関しては、家庭・学校・地域が連携して明確なルール作りを行うことが大切と思う。家庭でのルール作りを支援するために、講演などの取り組みをしてはどうか。
- 子どもたちが早期に「自分の適性や好きなこと」を自己認識し、周囲もそれを理解することは、自信の醸成や将来の選択肢を広げるうえで重要である。実習や研修、などを通じて、その適性を引き出す支援を積極的に行ってほしい。
- 居住地校ではなく通級生が在籍している学校へ本校の生徒が交流に行かせてもらうといったことはできないか。聴者しかいない学校ではなく聴覚障がい児のいる地域の学校での体験も有効ではないだろうか。
- 聴覚障がい児はインフォーマルな場での情報習得が困難なため、授業以外でも教師や家庭が積極的に関わり、コミュニケーションを深めることが重要である。それを通じて、子どもたちが自ら情報を収集し、豊かな言語経験を積めるような支援をしてほしい。
-

4 事務局より連絡

5 閉会の挨拶（校長より）